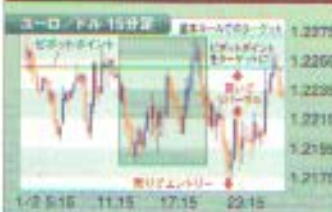


ピボットポイントが箱の中



リバーサル利益アレンジ



ピボットポイントが箱の中にあるとき、リミットは売りならS3に買いならR3に設定するのがアグレッシブなロブ流。大きな利益が狙える。逆にリバーサルは勝率重視。基本のリミットよりも、エントリー地点の近くにあるピボットのいずれかのポイントにリミットに定めて勝率を高める



20 pips以上の大きな利益をピボットで狙う

NYボックスをよりパワフルにしてくれる、オリジナルのアレンジ。まずは基本本元であるロブとブラッドリーのアレンジ方法から。

「ボクがよく使うのは、ピボット。前日の4本値からチャートのポイント計算する便利な分析手法です。ピボットには、ピボットポイントを中心にして上にR1、R2、R3、下にS1、S2、S3と7個のポイントがあり、これをリミットに使うんです(ロブ氏)」。ピボットは特に欧米で人気のテクニカル。これを参考にトレードする人も多いのだ。利用者が多い

ということば、それだけピボットの示すポイントが値動きの節目になりやすいということ。「7つのピボットのうち、箱の中にピボットポイント(P)そのものがあって、箱をブレイクアウトしたら、R3かS3がターゲット。シンプルだけど、リミットがともパワフルになる(ロブ氏)」。R3やS3はかなり遠目のポイントになるから、そこをリミットにすると勝ったときの利益は大きい。でも、もちろんそこまで到達しない可能性も高い。「リバーサルでも同じようにピボットが使えますよ。ただし、リバーサルのは、より勝率を高めるためのアレンジです。売りで入ったリバーサルなら、箱の底辺より

ピボットポイントの計算方法

ピボット(P) = (高値 + 安値 + 終値) / 3

R1 = P × 2 - 安値

R2 = P - S1 + R1

R3 = 高値 + 2(P - 安値)

S1 = P × 2 - 高値

S2 = P - R1 + S1

S3 = 安値 - 2(高値 - P)

※高値・安値・終値は前日のNY市場の4本値を参照



ピボットで「ちょい多め」に手堅く狙う

一方、同じピボット使いでも、ブラッドリー氏の方法はまったく異なる。売りでエントリーしたら、ピボットの7つのポイントのどれかが下にないかを確認。一番近くにありポイントまでの幅を計算する。「それが15 pips以上だったら、基本ルールの+20 pipsじゃなくて、そこをリミットにするんです」。

「少し上にあるポイントにターゲットにすればいい(ロブ氏)」。ブレイクアウトで負け、リバーサルでも負けと、往復ビンタを食らうと精神的ダメージは大。2連敗を避けるために、ピボットターゲットを使って、2連敗を避け、少しでも負けを回収できるのは、なにより心にやさしい。

15 pips以下だったら、もうひとつ下のポイントがリミット。こうするとトレードでより大きな利益が期待できる(ブラッドリー氏)。基本ルールよりも、ちょい多めの幅がとれる代償として、勝率はちょっと下がる。

「あとはリミットを徐々に変えていくという方法があります。エントリーして、最初のピボットポイントに達したらリミットをひとつ先のピボットポイントにし、ストップを±0にセット。さらにその次のピボットポイントに達したらリミットもストップも平行して動かしていくといったイメージです」(ブラッドリー氏)。

ストップを±0にすると、その時点で損切りにかかってもしリスクはゼロ。さらに、相かくストップを調整することで、損切り注文にかかっても、約定したら利益が出ているという、安心かつ、コソコソ利益を狙える状態に。こうしたアレンジは多くのNYボックスが好きな方法のひとつだ。

近くにあるピボットをリミットに



売りで入ったらすぐ下にあるピボットを確認。S2の幅を、エントリー地点からS2までの幅が15pip未満で、S2の下にあるS3がターゲット。25pipを切る



ロブ・ブッカー・ジャ/ロバート。ロブとの関係に「高カンダン」アメリカ経済のFX投資。11月に第2弾の書籍1冊予定。www.robbooker.jp/



北米一の知名度・実績FXコーチ。フリーランス。得意トレーダーに教えた売買は2億円超。ヘッジングの本を執筆

ツクテストで確認してください。また、アレンジにこだわるあまり、複雑になってしまうのはノーグッド。トレードの基本はシンプル・イズ・ベスト(ブラッドリー氏)。ふたりが共通して使うピボット。NYボックスはチャートに表示させておくといかも。

精鋭NYボクサーたちの独自アレンジを公開!

日々、手法に
研鑽を重ねる
精鋭ボクサーたち

ラシュータ氏



NYボックスとの出会いが1年ほど前。並行してNYボックスでトレードし10万円が60万円に。ヒラミツティングなども受けて大に増やしたNYボクサー

HAYATE氏



中国でFXスタートできたのは、並行してFXの勉強で100万円。NYボックスで約1500pipの利益を確保する。http://hayate2008.blog123.fc2.com/

ギター少年氏



FX取引中の専業トレーダー。東京証券取引所に登録された「FXで勝利の資金を築こう」は読み必し。http://guitar130.com/

にゅうようくぼくす持



FXはまた1年経ちながら、NYボックスで87%と高勝率。その要因である。無意味な「負け」の回避に成功。利益を確保。利益のリバーサル戦略に注目



入りを改善して勝率UP!



トレンドを見て
反対方向の
エントリーは回避

NYボクサーたちがまず手がけるアレンジが、エントリーの見極め。もっとも多いのが、「日足や4時間足、1時間足でトレンドを見て、トレンドに反する方向にはトレードしない(ラシュータ氏)というものだ」

FXの基本はトレンド順バリ。

トレンドに沿った売買のほうが勝率は上がる。でも、トレンドの方

3本が上から順に200、75、20と並んでいたならトレンドは下。20、75、200なら上、と見る。ポジションを持ちすぎると負けるのがFX。逆説的なんです。勝つために考えるのは「いかにポジションをとらないか」なんです。

トレンドに沿った売買のほうが勝率は上がる。でも、トレンドの方

これと同じ路線を行くのが、専業トレーダーのHAYATE氏だ。「日足や4時間足を見て、強いトレンドが出ていたら、反対方向に

は入りません。バックテストをして、「どんなときに負けるかな」と検証して、ルールを決めていった結果です」

もうひとつ要注意なのが経済指標。NYボックスのトレード時間は米国経済指標の発表時間と重なることが多い。

「指標発表時の乱暴下でできたビッグでストップ注文が約定してしま

うことが多いんです。なので、雇用統計など大きな経済指標の発表日はトレード自体しないんです」

「トレードはチャンスを選し

効率的な「出口」の導き方



ストップを
切り上げて
リスクを抑える

ミット20、ストップ30と、ストップの幅が大きく効率が悪いと感じる人もいます。この「リミット

損」をどう改善するかは、皆、腐

「僕も+20じゃ満足できないんです。すよね。エントリーして+10、15

くらいになったら、すぐにストップを±0に動かして利益を積み

いくことを考えます。さらに+25

くらいになったら、ストップを+20に動かして……と、細かくスト

なので、注意あれ。



トレンド順バリなら
長めに持っても
安心できる

また、ラシュータ氏もHAYATE氏同様、早めの段階でリスク





リバーサルにも
ATRを活用

リバーサルの改善に取り組みボクサーも少なくなく、リミットにATRを用いたギター少年氏は、リバーサルでもそれを採用。
「エントリーは基本ルールどおりですが、リミットとストップはボクサーの高値・安値ではなくATRの下2ケタ(ギター少年氏)つまり、ATRの値が0.0025ならば、リミットは+25pip、ストップは-25pip。」

リバーサルの精度を高める

一度、損切りにかかった後のリバーサルは気が重くもある。1時間足のATRを使い、相場の動きに応じて、取れる利益だけを取るとするのは納得。



逆転の発想で
勝率9割の
大胆アレレンジ!

一方、リバーサルで、攻めに入るのが、にやうよくばくす侍氏。名付けて、「円ドル反転戦法」、別名「2・5倍ルール」。

この戦法、かなり独特で取り扱いには要注意。なぜなら、売

で失敗したら、本来は買いでリバーサルに入るところを、さらにもう一度、先りて入るからだ。
「読者が取引するのは米ドル/円のみ。価値の狭い通貨ペアでござるから、30銭の損切り後にさらに高値まで上昇することは稀。よって、レンジ幅の狭い米ドル/円に限定して成立するのでござる」
確かに米ドル/円の価値は狭く、30銭の損切り後に両方向にさらに数十銭動く可能性は低い。リバーサルのリバーサルの発想だ。
リミット/ストップは20/30とブレイクアウトルールと同様。さらに「2・5倍ルール」の異名通り、取引数量に変化をつける。最初のエントリーが1枚の取引だった

たら、リバーサルは2・5枚に。
「3000円の損切りだったとして、反転戦法がキマれば利益は2.5万×20銭=5000円、負け2000円で、最初の取引で勝ったのと同じことになるでござる」
が、この戦法、失敗時の痛手は甚大。



勝を抜けて売りで入ったが損切りに。本来はリバーサルで買いたいが、反転戦法では再度売り。相対数量も2.5倍に増やしてリベンジを狙う。リミットやストップの幅はブレイクアウトの20/30と同様

値動き大のときはリミットも広く



エントリーしたら1時間足にチャートを切り替えATRを表示させる。エントリー時のATRの下2ケタがリミット幅。その1.5倍がストップ幅となる。相場が動いているとATRが大きくなり利幅も大に

を移動させ、さらに前回の高値・安値などを見ながらストップを動かす。アレレンジ法で確実に利益を確保。僕がトレンドの方向にしか入らないのはリミットを大きくしたいからでもあるんです」
トレンド順バリなら長めに持つても安心感がある。
「それとともに節目になるポイントを抜けてきたら、さらに積み増した



相場が動くときは
利益を大きく!
ATRを使った利確法

一方、こうした「リミット問題」に大胆な独自回答を提示するのが、ギター少年氏だ。
「相場の状況によらずに、機械的にリミット20pipとストップ30pipで固定するのは得策とは思えないですね。相場が大きく動いているときは大きく、小さく動いているときは小さく、小動きなら小さくとボラティリティ(変動率)に合わせて、リミット・ストップを変更したいと思って

採用したのがATRなんです」
ATR(アベレージジトゥールレンジ)とは、相場の変動率を数えてくれるテクニカル分析。ATRの値が大きいほど、相場が大きく動いていることになるし、小さければ相場は固く判断できる。通常、ダマシを避けるためのフィルターとして使われることが多いATRなのだが、ギター少年氏の使い方はかなり独特。
「エントリーしたら、まず1時間足でATRを確認して、その数値からリミットを出します。ATRが0.0040だったなら、下2ケタを利用してリミットは40pip、先にするんです」
エントリーの判断は15分足だが、

ATRの数値を確認するときは1時間で見ると注意。
「ストップはリミットの1・5倍。リミットが40なら、その1・5倍で60pip、先にストップ注文を置きます。1・5倍というのは、基本ルールにあるリミット20pip/ストップ30pipの比率から、こうすると相場のボラティリティに合わせた最適なストップとリミットが設定できる」
相場が大きく動いているときはATRの数値も大きくなり、それだけリミットも大きくなる。逆に相場が固いときはATRが小さくなり、リミットもより近くに設定される。この独創的なアレレンジ、かなり使いそう!